

令和7年度宮崎県立高鍋高等学校第1回学校運営協議会 議事録

令和7年6月24日(火) 14:30~16:30@高鍋高校 視聴覚室

出会者

【学校運営協議会委員】(敬称略)

石川和夫・福岡直樹・児玉由紀・新坂英伸・古川誠・中瀬修・金城成郎・山内大輔・松下寿・三浦章子

【学校関係者】

間曾妙子校長・甲斐健仁事務長・甲斐康徳(主幹教諭・生徒支援部主任)・甲斐陽一(進路支援部主任)・川崎育夫(教務部主任)・黒木真理(教育魅力化情報部主任)・永池枝里子(生活文化科主任)・山口諒(探究科学科主任)・小見門真由(1学年主任)

(1) 校長挨拶

年度初めに生徒に伝えたことは、1:高鍋高校の主役は生徒、2:「磨く」多様性を受容・他者と協働

3:自他の命を大切に 以上である。

今年度のスローガンは、「万紫千紅」(一人ひとりが主役)とした。

(2) 学校運営委員の委嘱

(3) 学校運営協議会委員および職員自己紹介

(4) 学校運営協議会についての趣旨説明(松下教頭より)

○規約について

第4条 協議会の委員は10名以内 第4条3 委員は身分は特別職の地方公務員

第5条 職務上知り得た秘密をもらしてはいけない(守秘義務)

第8条 協議会の中に会長、副会長をおく←互選

第9条2 委員の過半数がいなければ会議をひらくことはできない

第10条 本会は公開会議(傍聴希望者がいれば聞くことができる) などについて説明。

(5) 学校運営競技会長および副会長選出

会長:中瀬会長、副会長:松下教頭(兼司会進行)

(6) 令和6年度成果と課題、(7) 令和7年度教育目標・学校経営方針の説明(間曾校長より)

・昨年度の取り組み 紀要『明倫』を参照

・令和7年度の経営方針について(『学校要覧』参照)

○学校教育目標 学校は人材を育てるところ

○学校経営ビジョン 保護者・地域から信頼される学校

○基本方針 就学支援金制度が来年度からより充実する。

県立高校は点ではなく、面になることができる。さまざまな学科が影響しあって学科を超えた学びができることが魅力なのではないか。

○めざす生徒像 「真善美」の実現

・高鍋高校の生徒の印象:生徒が素直で純朴、挨拶がすばらしい、早朝から清掃をする部活動生に感動。

・課題:学力の幅が広い。

・学校を取り巻く環境:5町からの支援、同窓会やPTAからの支援→安心できる。

地域に素晴らしい学校がある、ということをもっと子どもに知ってもらう。選んでもらえる学校にしていこう。5町からは「もっと取り組みがはっきり見えるように」という要望もある。

○重点目標5点+1 風通しのよい職場づくり、一人で生徒に対応しない学校。

「行ける学校」ではなく、「行きたい学校」「行かせたい学校」に。

(8) 学校の現況報告

①教務部 令和7年度C表 年間30単位に整えた。

※生徒が自分のために使う時間を増やし、個の力を大きくすることが目的。

※早く終わった1時間(7限目)をどう使うのか。さらなる充実の手立てが必要。

②生徒支援部

部活動生がよく頑張っている(運動部だけでなく文化部も頑張っている)R9 国スポに向けて。

ヘルメット着用(推進リーダー校)ヘルメット購入のために補助が出ている。

自転車も罰金が導入された。これまで以上に交通安全に気をつけるよう呼びかける。

③進路支援部

方針「夢=実現」 多様な進路希望に応じる。

就職に関して、地域コーディネーターと協力していく。

④教育魅力化

100周年の記念で本校公認マスコットキャラクター「べこぴ」を作成した。国際交流も積極的に実施している。KGC(東児湯5町)における活動について、「令和明倫堂塾」:日程調整は難しいが、とても評判がよい。魅力ある情報を発信しながら定員補充に邁進していく。

④生活文化科 生活産業における人材育成。

諦めない心を鍛えるためにも検定を受けさせている。不登校傾向や経済的に厳しい家庭の生徒の自己肯定感を高める。専門性を高めるために外部講師の授業を取り入れている。

⑤探究科学科

大学進学を目的とした学科、フィールドワークやイングリッシュキャンプなどで力を育成している。探究活動に力を入れている。

(9) 学校運営協議委員会からの意見・質疑応答 ○は運営協議会委員からの御意見

- 学科ごとに熱心に指導してもらっていることがわかった。
- 地域のイベント関係のボランティアにいつも高校生に参加してもらっている。
- 町が主催するビーチクリーンや灯籠まつりにこれからも参加してほしい。
- 高鍋高校の生徒は駅前の活性化や駅改修にも大きく寄与している。
- 国公立進学が一つの目安になるなら進学を頑張らせるのも必要。
- 挨拶もできるし、いい学校だと思う。
- できるだけ学校に協力していきたい。
- コミュニティ・スクールのことがあまり理解できない。
- さまざまな部門からの説明から熱心さが伝わった。
- 「来たいと思える学校」にするためには、こちらから出ていけないといけない。
- 学校の体験ができれば行ってみようと思える学校になるのではないか。
- 「伸びしろ」を使えるような時間ができたのは良かった。少ないなりに頑張ろうとする(受講する)生徒がいることはいいことなので、ぜひ伸ばしてほしい。
- 取り組みを聞くと十分魅力があるなあと思いました。
- 事前に魅力を伝える活動、KGCを巻き込んだ子供たちの活動などで常日頃から情報発信をしていくことが大事ではないか。いかに魅力を発信していくか。
- 交通安全について。自転車のルールがまだよろしくない。逆走は本当にあぶない。ルールを知らなくて事故に遭うということがないように、指導してほしい。
- 家と学校の行き来になっていて、社会に触れる機会が少ないのではないか。
- 地域巡検で高校生と話す機会があった。職業ってどれくらい知っているかと聞いても10個も出てこない。職業を知らない生徒が多い。対話するのは親がメイン。親以外の大人とどうつないでいくかが大切。
- 5町の取り組みにもっと高校生が参画してもいいのではないか。ぜひ地域に目を向けて積極的に参加してほしい。
- 探究活動について、ビジネス、行政に視点をあてて探究するのもよいのではないか。地域の企業=地域に密着している。認定企業に対してはアルバイトにいきます、みたいなことができるといい。地域の企業をいかに我々が知らなかったか。知ると面白い企業はたくさんある。
- 0を1にするような「切り拓いていく」ことも大事だし、開拓ではなく1を10に伸ばす人もいる。フォロワータイプも違う。生徒のマインドを感じ取って必要な策をとっていくのが大事ではないか。
- まずは子供たちが興味を持つ。興味を持ってもらう取り組みをする。
- 地域の方々にももっと高鍋高校を知ってもらい、関心を寄せてもらう。
- 次世代を担う小中学生に来てもらう時間をつくる(場所を提供する)
- 鳴海ヶ丘祭やOB祭に足を運んでもらう。
- 高鍋町「ひなたば」50くらいの人が西中と東中に行って大人と対話する。高鍋高校バージョンで考えるなら児湯郡の企業の人に来てもらって話を聞くこともいいのではないか。

【質問】

「東京大学金曜講座」にはどれくらいの生徒が参加しているのか？

→配信される時間が平日の17時半～で時間外勤務になるので、学校の体制として取り入れるのは難しい。参加したい生徒が参加できる手段として案内は続けている。

【質問】朝課外、夕課外をなくしたあと、生徒は空いた時間(放課後)をどう使っているのか。

→部活動、勉強、オンデマンド学習などいろいろ選べる環境づくりをしている。生徒はそれぞれ思い思いに過ごしている。バスや電車の時間帯の問題もある。高鍋駅はすごく混む。朝の時間帯に余裕ができたため、心にも余裕がうまれた。課外をなくしたことで成績が下がったということは無かった。

【質問】学科を越えた学びは実現しているのか。

→教育課程外の時間に違う学科の生徒とふれあうことで切磋琢磨してほしい。

・農業高校と普通科高校の生徒の交流も進めてほしい。

【質問】ヘルメット着用推進リーダー校になって、子どもにどうしたいのか(かぶりたいのか否か)を確認しているのか。

→県からの強い要望もあり、警察も着用を進めており、確認というより積極的に働きかけている。

生徒会も動いている。ヘルメットの着用率調査をして効果をあげているところは調査期間を工夫しているからではないか。

・自分で決めないとやっても意味がないから、常に先生方から「あなたはどうしたいの」と聞いてもらうことが大事ではないか。

【松下副会長より】

学校の経営方針及び活動計画への承認はいただけるか。→全会一致にて承認。

(10) 令和7年度年間計画について

三浦教頭より

・協議会は年3回実施

・第2回は10月4日(土)午前中は学校公開、午後は令和明倫堂塾(会議の形ではなく学校の活動を見てもらう)

・第3回は日程未定(2~3月ごろを予定している)